

資料一1

地震災害調査と大学の地域貢献を考えるシンポジウム
一鳥取県西部地震災害調査報告会一資料(2001.1.27)

中海干拓堤防(本庄水域周辺)の地震被害とその特徴

徳岡隆夫・井上卓彦・吹田 歩(島根大・総合理工・地球資源環境学教室)

- ◎干拓淡水化事業のもっとも重要な2つの施設(中浦水門と本庄排水機場)に隣接する埋め戻し地盤での沈下が大い、前者ではとくに江島側の埋設施設が被害を受けた、後者では機場南東側の森山堤防が大きく沈下し、干陸が完了していたとすれば、7mの水位差で越流が起こった可能性がある。
- ◎北部承水路堤では宍道断層(帯)の直上の部分で沈下が大い、断層帯での揺れの増幅と破碎帯粘土(および沖積層)がこの部分で厚いことが原因であろう。
- ◎干拓堤防は地震に対してきわめて脆弱であることが1983年の日本海中部地震での八郎潟干拓堤防の被害で立証された。この教訓をもとに中海干拓堤防の施工管理が研究され、「被災後に復旧工事で対処すべき」との見解が出されたが、これは安易に過ぎると云わざるを得ない。
- ◎八郎潟および河北潟の干拓地が調整池の先の防潮水門によって外海から隔てられているのに対して、森山堤および北部承水路堤はそれを直接受ける配置となっていて、堤防の安全性の確保が困難である。干拓計画そのものの致命的な欠陥と云えよう。
- ◎八郎潟干拓事業では日本海中部地震による被災直後から秋田県・本省による広範な調査が行われた。これと比較すると、干拓中止が確定した後は云え、行政機関による対応はお粗末であったのではないか、被災の実態を詳しく記録し、その原因を究明しておくことは今後の施策を検討する上で必要なことである。

資料一2

〈地震災害調査と大学の地域貢献を考えるシンポジウム—鳥取県西部地震災害調査報告会〉

被災史料の救出保全活動と地域の復興

2001.1.27 法文学部歴史社会講座 竹永三男

はじめに

(1) 鳥取県西部地震と歴史資料の被災

- ①指定文化財の被災 ……鳥取県立博物館等の調査
- ②寺院・神社の被災 ……石造物（鳥居、石灯籠、墓石）
- ③史料保存機関の被災 ……博物館、図書館
- ④公共機関・施設の被災 ……役場、学校、公民館
- ※⑤個人所蔵史料の被災 ……史料としての認識の度合い→廃棄・滅失の進行
解体・修復過程での廃棄、焼却
古物商・好事家の買い取り
盗難←過疎化

(2) 報告の課題

- ①阪神淡路大震災の経験に基づいて展開した被災史料救出保全活動の概要、大学関係者の関わりを略述する。
- ②鳥取県西部地震における被災史料救出保全活動で経験した史料保全上の問題を考える。
- ③地域の復興と被災史料救出保全活動との関わりを考える。
- ④大学の地域社会への関わり、貢献の在りよう・在り方を、被災史料救出保全活動を通して考える。

【I】震災と被災史料の救出保全—兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）と鳥取県西部地震

(1) 阪神淡路大震災と被災史料の救出保全活動

- ①阪神大震災対策歴史学会連絡会の結成……京阪神から全国へ
- ②歴史資料保全情報ネットワーク（「史料ネット」）の結成と活動
……歴史学会会員（教員・学生ほか）、史料保存機関とその職員等
- ③主要な活動
 - 1)巡回調査と被災史料の救済
 - 2)世論喚起、行政当局への働きかけ
……「被災歴史資料の保存救済についての学会アピール」（1995.3.3）
 - 3)震災復興への参加……「歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」（1995.5.6）
 - 4)市民歴史講座の開催、救済史料の現地活用（展示、解説、保存対策）

(2) 鳥取県西部地震と「史料ネット」の働きかけ

- ①10月7日 代表・事務局協議 → 10月9日 山陰地域への働きかけ
- ②10月10日 メーリングリスト [tottorieq] 設定→関係者への情報発信、協議の場
→学会、文書館等史料保存機関関連のHPに「山陰大地震史料ネット情報」開設
- ③10月22日 史料ネット・山陰地域歴史学関係者の合同現地調査開始
米子市立山陰歴史館での協議
山陰歴史館長／米子高専／鳥取大学
島根大学（教員・学生）／宍道町史編纂室
神戸大学／天理大学／滋賀大学
状況確認と阪神淡路大震災における「史料ネット」活動の経験伝授
境港市、伯太町、日野町（根雨・黒坂）等の状況調査

(3) 鳥取県西伯・日野地域における被災史料救出保全活動の展開と「山陰史料ネット」の結成

- ①被災史料救出保全活動の展開
 - 1)教育委員会教育長・文化財担当者への文書・電話要請……一部面談
 - 2)調査・救出保全地域〔→ポスター参照〕
島根県……伯太町／安来市（島根県文化財課）
鳥取県……日野町（根雨・黒坂・下黒坂ほかほぼ全域）—日野町公民館（黒坂）の協力
会見町（町内ほぼ全域）—教育委員会の広報徹底、資料提示、町民の呼応
西伯町（町内ほぼ全域）—図書館にて保全
岸本町（着手）—教育委員会による広報、住民の呼応
境港市（花町、上道、外江）—教育委員会の広報、保全場所の問題 他

岡山県……新見市(千屋)

②救出保全活動の実際〔ポスター参照〕

- 1)自治体(教育委員会等)との連絡・連携……被災状況の把握
- 2)MLによる救出保全活動の予定広報→参加確認→ボランティア保険、資材準備等
- 3)現地活動
 - a.ミーティング
 - b.巡回調査……趣旨説明・史料確認・保全依頼
 - c.被災史料の救出保全(所蔵者保全が不可能な場合)
 - d.救出保全史料の仮整理 e.f.g.h.i.j.k.
- 4)事後活動
 - a.調査票の整理→MLでの公表
 - b.救出保全史料の整理、収容〔開始〕
- 5)地域での救出保全史料の活用〔今後〕

*参加者 のべ281名

(島根大学/島根県立図書館/島根県庁総務課/島根県古代文化センター/島根県埋蔵文化財調査センター/宍道町史編纂室/山陰民俗学会
鳥取大学/米子高専/伯耆文化研究会/
岡山大学/
京都造形芸術大学/神戸大学/天理大学/滋賀大学/大阪大学/ほか)

③救出保全史料の内容

- 1)古文書等(近世・近代) 薬種・質・鉄商経営史料、日露戦争従軍兵士の手紙、
- 2)古書籍・教科書等
- 3)日記・記録 ex.旧制松江中学校生(野球部員)の日記 1918-20年
- 4)古新聞 ex.「松陽新報」等の結合多い地元紙
- 5)生活用具
- 6)農具 ex.秋鹿村大字岡本・大工藤五郎製の唐箕〔第一回島根県共進会一等賞受賞〕
- 7)漁具 ex.日野川川魚漁の投網等
- 8)棟札
- 9)襖(下張りに古文書 300枚以上)・屏風・壁紙・畳下敷 他

④「鳥取県西部地震(山陰中部地震)被災史料救出ネットワーク(山陰史料ネット)」の結成
11月23日結成

代表 竹永三男(島根大学・日本近現代史)
事務局 小林准士(島根大学・日本近世史)
運営委員 岸本 覚(鳥取大学・日本近世近代史)
山藤良治(米子高専・日本近世史)
今津勝紀(岡山大学・日本古代史)ほか

⑤地域学会・全国学会の支援

鳥取地域史研究会/伯耆文化研究会/島根史学会/社会経済史学会中国四国部会
中国四国古代史研究会/岡山地方史研究会
歴史科学協議会/歴史学研究会/日本史研究会

⑥島根大学の支援

- 1)引越し用段ボール箱の供与←総合理工学部・生物資源科学部・事務局移動
- 2)資材購入……「もんじょ箱」(古文書保存用中性紙箱)、SIL ティッシュ(古文書保存用中性紙薄紙)防塵マスク、竹べら
- 3)トラック搬送……境港市外江町・唐箕(秋鹿村大工製……引取り許可済)

【II】 今日における史料保存上の諸問題と被災史料救出保全活動

(1) 歴史資料の滅失の進行

①史料の散佚・消滅・地域外流出の要因

- 1)史料そのものの在り方から
 - 「読めない」(御家流くずし字、くせ字)「汚い」(埃、鼠虫害、湿気)
 - 「分からない」(内容・伝来不明)
- 2)代替わり、家建て替え等の際しての処分(廃棄・焼却)
- 3)古物商・古書店等による買い取り
- 4)過疎化・高齢化による離村、保存管理者の不在

- 5) 史料についての認識
 - a. 「史料＝古文書」という認識
 - b. 原史料(原文書)の代替不可能性についての認識の欠如
- 6) 意図的・意識的に残さない
 - a. 金銭貸借証文
 - b. 区有文書
 - c. 部落問題関係史料

② 史料保全活動の蓄積

- 1) 過去の史料調査の問題点—中央権威による地域史料の掠奪的調査
個別研究目的による史料の在りようの破壊
- 2) 史料保存の在り方 —現地保存原則
原秩序保存・記録

(2) 被災史料救出保全活動と史料保全

- ① 阪神淡路大震災と「史料ネット」の経験
- ② 「山陰史料ネット」の活動から
 - 1) 史料滅失の進行の確認……震災以前から／震災／震災復旧に際して
 - 2) 何を史料と認識するか……「ずれ」とその修復
 - 3) 通常の史料調査(個人研究・自治体史等)では見られない史料の確認〔小林准士 2000a〕
……畳下敷き文書、壁紙裏打ち文書、襖下張り文書
日記類
 - 4) 生活復旧と史料救出保全活動
 - a. 当初の懸念
 - b. 被災者の受け止め方
 - c. 好意的対応の条件
 - 自治体(教育委員会等)の広報
 - 地元研究者の協力
 - 史料救出保全活動の原則・配慮←阪神淡路大震災の経験
 - ボランティアの心得〔ポスター参照〕
 - 地域における歴史学習活動(歴史研修会／生涯学習講座／古文書を読む会……)

【Ⅲ】被災史料の救出保全活動と地域復興

(1) 阪神淡路大震災の経験

- ① 復興の町づくりと地域史の学習…行政主導の区画整理事業に対する住民の参加要求の支え
- ② 救出保全活動⇔市民の歴史学習……市民講座／古文書を読む会／展示会／地域文書館計画

(2) 歴史学研究における「災害史」への注目

- ① 「災害文化」の形成と歴史学の役割
「災害文化」……「死を銘記し、災害の惨禍を伝え、被害防ぐ独自の文化、災害についての集団的な記憶を集積することによって、過去の災害の災害体験を風化させない、社会全体が記憶装置となるような文化」〔外岡秀俊『地震と社会』……奥村弘 2000 による〕
- ② 災害に関する歴史学研究……火山噴火／地震／水害／ cf. 鉾毒(公害)

(3) 鳥取県西部地震における被災史料救出保全と歴史学研究

- ① 地域史料の在りようについての認識の革新
 - 1) 史料の多様な在りよう、史料伝来・遺存の条件
 - 2) 住民(所蔵者)と歴史資料との関わり
 - 3) 史料滅失と伝存の同時進行……所蔵者の史料認識、歴史学への期待
- ② 山陰地域災害史・災害復旧史の人文社会科学研究・歴史的研究の必要性
- ③ 震災復興と歴史資料・地域の歴史
 - 1) 復興計画に対する住民意識……行政対応(鳥取県の住宅再建補助)
同じ地域に住み続けたいという意識の中身—地域認識・地域に対する歴史的認識
 - 2) 地域における過去の災害と復興の歴史
 - 3) 地域復興と町づくり……町の歴史的個性
日野町黒坂……城下町→陣屋
根雨日野町／会見町……出雲街道
境港市花町……鉄道敷設以前の港町の中心的景観
……日野町板井原・久住、西伯町伐株等々

絵図、古文書、民具等による復原・再生

おわりに一被災史料救出保全活動を通して大学の「地域貢献」を考える

(1) 大学と地域社会—歴史学の研究と教育に即して

①歴史学研究と地域社会

1) 地域 [対象としての地域/方法としての地域〔現代歴史学の隘路打開〕
史料が生み出され、伝存していく場]

2) 学生教育と地域社会

古文書学実習

卒業論文

地域の歴史研究者と学生教育

3) 大学教員の位置

専門性

フットワーク 立場・勤務形態・職場環境

学生の協力

4) 学生(学部・大学院)と被災史料救出保全活動

活きた歴史学習 史料の存在形態、史料調査と記録・収集、住民の歴史意識
現実社会の認識

5) ボランティア活動としての被災史料救出保全活動

(2) 今後の課題と展望

①被災史料救出保全活動の継続……境港市/岸本町/島根県域(安来・伯太・広瀬)

②救出史料の確認・整理・返還と保管・活用……古文書等/民具等/襖類の扱い

③地域住民の歴史意識への働きかけ……史料保全の日常的基盤づくり

④被災史料救出保全活動の総括と普及

1) 阪神淡路大震災=「史料ネット」との比較検討、協力関係

2) 他地域での自然災害等への対応・協力

中国5県の大学連携

中国5県の地域史研究会・学会連携

3) 他の災害(水害/火山噴火/火災……)の予測と対応

⑤大学の役割

1) 情報センター……MLの威力〔今回は文化庁職員〕

2) 専門的知識・ノウハウの提供

3) 人的ネットワークの拠点

4) フットワークとその条件

⑥震災・震災復旧に関する記録の保存と検証……県立文書館/地域文書館の必須の役割

《参考文献》

辻川 敦 1995:「阪神・淡路大震災による歴史資料の被災と救済活動」『歴史学研究』675

藤田明良・奥村弘・大国正美 1996:「阪神淡路大震災と歴史学—被災史料保全活動から見たこと—」『日本史研究』410

〔藤田明良「史料ネット活動概要」

奥村 弘「史料保全活動から見た現代都市社会の歴史意識と歴史学の課題」

大国正美「生活者の歴史意識と史料保存」

藤田明良 1997:「阪神大震災における史料救出・保全活動—史料ネットの議論と活動—」『日本史研究』416

奥村 弘 1997:「史料保全活動から見た現代都市社会の歴史意識と歴史学の課題」『日本史研究』416

大国正美 1997:「生活者の歴史意識と史料保存」『日本史研究』416

寺田匡宏 1997:「復興と歴史意識—阪神大震災記録保存運動の現在—」『歴史学研究』701

馬場義弘・奥村弘・辻川敦 2000:「市民社会における史料保存と歴史学—阪神・淡路大震災と歴史学」『歴史学研究』738

〔馬場義弘「被災史料保全活動と歴史研究の可能性」

奥村 弘「時代が求める歴史研究のあり方とは—史料ネットの活動から考える—」

辻川 敦「震災の経験から史料保存のあり方を考える」

小林准士 2000a:「鳥取県西部地震と史料救出活動」〔鳥根史学会 2000 年度大会報告レジュメ〕

小林准士 2000b:「鳥取県西部地震後の被災史料救出活動の経過」〔同上〕

平成13年5月21日印刷

平成13年5月25日発行

編集・
発行者

島根大学鳥取県西部地震災害調査団

〒690-8504 松江市西川津町 1,060

TEL 0852-32-6100(代表)

FAX 0852-32-6469

印刷所 有限会社 高浜印刷

〒690-0133 松江市東長江町 902-57

TEL 0852-36-9100

Report on Earthquake Disaster Research of the 2000 Tottoriken–seibu Earthquake

contents

2001.5.25

Pictorial

Reports

- The Shinji Rift System and earthquakes Yoshihiro Sawada 1 ~ 6
- Meso-Paleozoic Formation of western foot of Mt. Daisen, San'in district, Japan
..... Hiroaki Ishiga 7 ~ 10
- Ground disaster in Yumigahama Peninsula and the coastal area along Nakaumi Lake
by the 2000 Tottoriken-seibu Earthquake. Seiki Yamauchi
and Earthquake Disaster Research Group of Shimane University 11 ~ 19
- The boiling sands liquefied by the Western Tottori Earthquake 2000, San'in district, Japan
..... Hiroaki Ishiga, Kaori Dozen
and Earthquake Disaster Research Group of Shimane University 21 ~ 24
- Paneling the cross section of jetted sand obtained by Geo-slicer, and its sedimentologic characteristics:
an example from Daikon-jima Island, Shimane, Japan
..... Katsuhiko Nakayama, Koichi Shimokawa, Tsuyoshi Haraguchi, Hiroaki Ishiga
Shuichiro Yokota, Maki Takehara, Masahiro Nakajima, Hajime Mori, and Yusuke Ishiyama 25 ~ 30
- Application of "Geoslicer" for obtaining azimuth-oriented samples from the Yumigahama sand-bar,
San'in district, Japan Hiroaki Ishiga, Kaori Dozen, Shuichiro Yokota
Tsuyoshi Haraguchi and Koichi Shimokawa 31 ~ 33
- Survey on ground ruptures and slope failures in mountainous area due to the 2000 Tottoriken–seibu
Earthquake Shuichiro Yokota
and Earthquake Disaster Research Group of Shimane University 35 ~ 50
- Characteristic of rock falls caused by the 2000 Tottori–ken Seibu Earthquake
..... Shin'ichi Mizuguchi, Masayo Fujita, Misako Kamo, Hironori Kato
Hiroshi Nakano, Takeshiro Otani, Shunji Yokoyama and Shuichiro Yokota 51 ~ 60

Miscellanea

Earthquake Disaster Research Group of Shimane University

Department of Geoscience

Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering

Shimane University

Matsue 690-8504, Japan